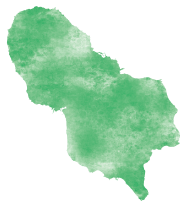


# 八丈島

南国情緒豊かな  
花と緑と温泉の島



花の形から極楽鳥が連想されるストレチア。

## 八丈島はどこにあるの？

位置：都心から南に287km

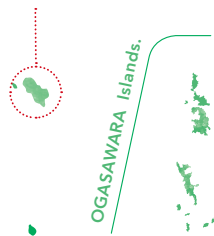
面積：69.11km<sup>2</sup>

### アクセス

航路：竹芝－八丈島（東海汽船）大型客船で約10時間20分

空路：羽田空港－八丈島空港（ANA）飛行機で約55分

HACHIJOJIMA



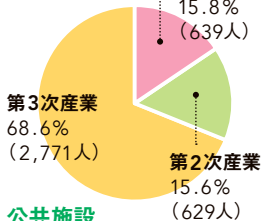
## information

### 島の人々

人口：7,613人

世帯数：3,913世帯

### 島の産業



### 公共施設

役場：1

医療機関：2

小学校：3

中学校：3

高校：1

### 八丈町の特産物

水産生鮮品：ムロアジ、カツオ、トビウオ、キンメダイ

水産加工品：くさや、ムロ節、すり身、干物、燻製  
農林産生鮮品：フェニックス・ロベレニー、レザーファン、ルスカス、キキョウラン、フリージア、アシタバ、レモン、パッションフルーツ、観葉鉢物、トウガラシ

農林産加工品：明日葉麵、明日葉茶、明日葉粉末、焼酎、アイスクリーム、唐辛子加工品、八丈フルーツレモンジャム

工芸品：黄八丈

### 八丈町のシンボル

花：ストレチア

木：フェニックス・ロベレニー（シンノウヤシ）

鳥：アカコッコ

魚：ハルトビ（ハマトビウオ）



## ひょうたん型の島

東京から南に287 km 離れている八丈島ですが、羽田空港から飛行機を利用すれば直行便で約55分。アクセスしやすく、伊豆諸島の中では、大島に次いで多くの観光客が訪れています。

八丈島の島の形は珍しいひょうたん型をしています。これは南東部を占める三原山(700 m)と北西部を占める八丈富士(854 m)の2つの火山が接合したことにより、火山活動によりもたらされた地形からは温泉が誕生し、島内には7カ所の温泉があります。

また、年平均気温が約18度の温暖な気候を活かし、八丈島では大正時代からハイビスカス、ストレチア、フリージアなどの亜熱帯性植物の栽培が行われています。特に、一年中緑の映えるフェニックス・ロベレニーは、国内有数の産地となっています。

## 八丈島の文化・歴史

八丈島で昔から使われている言葉「八丈語」は大変貴重で、ユネスコが認定した世界消滅危機言語のひとつになっています。この島ことばを守る取組として、学校で島ことばの劇が行われるなどしています。また、黄八丈や島酒と呼ばれる焼酎も、八丈島の歴史・文化を語る上で欠かせないものとしてあげられます。

黄八丈は、本居宣長が書き残した書物に「黄八丈を織り始めたところから八丈島と名が付いた」と記述があることから、島の名前の元になったとされています。島酒は1853(嘉永6)年に流刑になった丹宗庄右衛門が製法を伝えたことから製造が始まり、この功績を讃える島酒の碑が建てられています。

ヘゴシダ



## ふたつの火山が形成する豊かな自然



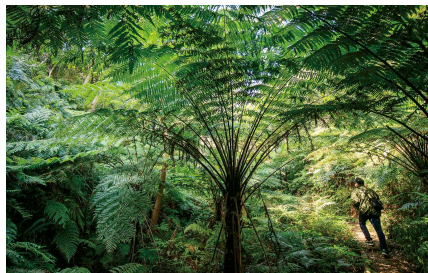
八丈富士のお鉢巡り。

### 伊豆諸島最高峰の 八丈富士（西山）からの絶景

西にそびえる八丈富士は、標高854mで伊豆諸島最高峰です。裾野が大きいのびた優雅な姿が富士山に似ていることから、名前に「富士」が付けられました。山頂には直径400m、深さ50mの断崖絶壁の火口があり、約1時間かけて一周するお鉢巡りは迫力満点です。生き茂る樹木や池を見下ろしながらのトレッキングを楽しめます。八丈富士7合目には環状道路が整備されているので、登山口まで車で行くことができ、近くには森に囲まれた浅間神社もあります。



八丈富士、山頂  
付近の池。



入場には公認ガイドの同行が必須のヘゴの森遊歩道。

### 豊かな水と生命力に 満ちた森を抱える三原山（東山）

東に位置する三原山は、10万年以上も前に誕生した標高700mの火山です。多くの火山活動と長い年月をかけた侵食により、数多くの谷が複雑に発達し、地下水が得やすいことから、亜熱帯性の植物を含む豊かな森林が形成されています。三原山が育んだ豊富な地下水により、誕生したのが温泉と地熱発電です。温泉も地熱発電も、地熱で温められた地下水を利用しており、八丈島に7カ所ある温泉は、すべて三原山の山腹に分布しています。地熱発電所は、新たな施設の開発が進められています。



#### 裏見ヶ滝

「滝を裏側から見る」という珍しい景観。

### 八丈島の自然を知る、見る、触れる 八丈植物園／八丈ビジターセンター



熱帯・亜熱帯性植物の展示を中心とした公園です。園内の温室には、花木類や観葉植物、果樹類など100種類以上の植物が展示されています。敷地内にある八丈ビジターセンターでは、富士箱根伊豆国立公園に属する八丈島の自然・文化情報を発信しています。



22haもある広大な園内では、植物栽培以外に小さなシカ科の動物「キョン」も飼育されています。

## 国内有数の 亜熱帯性植物の栽培地

八丈島では、フェニックス・ロベレニー(以下、ロベ)などの観葉植物やフリージアなどの花卉が栽培され、東京市場や海外などに出荷しています。ロベは、その優美な姿から観葉植物として人気が高く、成木は鉢物、切葉は生け花用の添え葉として用いられています。

ロベの原産はインドシナで、1921(大正10)年に日本で初めて雌雄一对の株が八丈島に導入されました。島の温暖な気候や土壌がロベの生育に適していたため、積極的に栽培されるようになりましたが、太平洋戦争で栽培は一時中断。戦後、花卉園芸が復興する中で文字通り不死鳥のようによみがえりました。八丈島のロベは、切葉で国内の市場占有率の96%、鉢物では100%を占めています。



島では「ロベ」と呼ばれている  
フェニックス・ロベレニー。



ロベが島の産業に貢献したことを感謝する碑。



アロエの花(12〜2月)。



「フリージアまつり」が開催される、八丈富士を望む広大なフリージア畑。

## 地域活性を目指す 八丈島の畜産

大正から昭和の初期にかけて、八丈島は畜産王国を築いた時期がありました。大手乳業メーカーが島に工場を設立し、また、島内の一部の地区では、全国的な開始よりも10年も早く学校給食に牛乳が導入されました。しかし、本土の安い乳製品が流通するようになると八丈島の畜産は衰退し、酪農家の数も減っていきました。

近年、かつての酪農王国の姿を取り戻すための取組が行われ、アイスクリームや洋菓子などの乳製品を提供するカフェもオープンしました。新たな八丈島名物になりつつあり、これを目当てに島を訪れる人もいます。

乳製品デザートが人気。



八丈島は、一年を通して牛の飼料となる草が豊富。



牛のいる牧歌的な風景は観光資源のひとつ。

## 八丈島の草木で 染め上げた黄八丈

黄八丈は、八丈島で自生、あるいは栽培された草木のみを使って染色する絹織物です。江戸時代には、年貢の代わりに貢納布として幕府に納められていました。一説には、一疋(二反分)の長さが曲尺で八丈(約24m)に織られていたことが「八丈島」の由来とも言われています。また、「恋娘昔八丈」という人形浄瑠璃で「黄八丈」の衣装が採用され、後に歌舞伎として上演されて爆発的な人気を誇ったとも伝えられています。

黄八丈は、孫の代まで色あせないといわれる卓越した染色技術が特徴で、「本場黄八丈」として経済産業省伝統的工芸品、東京都産業労働局東京の伝統工芸品として指定されています。

黄

### 【黄八丈】

黄八丈のメインとなる黄色は、八丈刈安(コブナ草)で染めていきます。染め液に糸を一晚浸し、翌朝に絞って干す作業を10数回繰り返した後、椿と榊の灰汁で媒染(ばいせん)して、深みのある黄色に発色させます。

朱

### 【朱八丈】

黄八丈の中でも、赤みのある茶色(樺色)を主体にしたものを朱八丈と呼びます。朱八丈はマダミの樹皮を原料にしており、樹皮を煮た染液で糸を染め、マダミの灰汁で媒染し発色させます。

黒

### 【黒八丈】

黒八丈の黒色は、椎の木の樹皮を原料にしています。椎の木の樹皮を切って、大釜で煮て、染め液を作ります。黒八丈の場合、染めて、脱水して屋外で干す工程を数十回繰り返します。

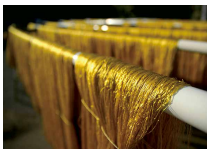


無地、縞柄、格子柄など、意匠は極めてシンプル。

伝統的織機で手織り作業によるもの。



太陽光が織物に艶やかな光沢をもたらします。



染めていく過程で、鮮やかな発色が生まれます。



色は、黄色、樺色、黒色の3色が基調。

## 八丈島は7つの温泉を 擁する温泉天国!

八丈島には温泉施設が7カ所あり、そのすべてが坂上の3地区(榎立・中之郷・末吉)にあります。

末吉温泉「みはらしの湯」は、昼間は太平洋と八丈島灯台を見渡すことができ、夜は星空を眺めながら入浴できる絶景自慢の温泉です。

このほかにも、檜造りが心地よい「ふれあいの湯」、秘境の佇まいを見せる「裏見ヶ滝温泉」、180度オーシャンビューの「足湯さらめき」など、趣のある温泉を楽しむことができます。



末吉温泉 みはらしの湯



足湯さらめき



榎立向里(かしたてむかいざと)温泉  
ふれあいの湯



裏見ヶ滝温泉



八丈町の温泉タオル



日本屈指の透明度を誇る八丈島の海で、ダイビングやスノーケリングを満喫。



水と小石によって岩盤が削られた罅穴群(ポットホール)は町の天然記念物。



大坂トンネル展望台 八丈富士や八丈小島を一望できる展望スポット。



大里地区にある陣屋跡の玉石垣。

島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル(電動アシスト付きを含む)あり

島の窓口

**八丈島観光協会**  
 〒100-1401  
 東京都八丈島八丈町大賀郷 2345-1

**八丈町産業観光課**  
 〒100-1498  
 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

島めぐりコース

- 【1日目】
- 午前 八丈島空港に到着 → レンタカーで大坂トンネル展望台へ → 服部屋敷で郷土芸能を見学 → 島内で昼食
  - 午後 裏見ヶ滝を散策 → 足湯きらめき → えこ・あぐりまーと(熱帯植物の展示ハウスや農産物直売所がある施設)でひと休み → 黄八丈めゆ工房を見学 → 大里の玉石垣
- 【2日目】
- 午前 八丈富士 or 三原山をトレッキング or 海でスノーケリングを楽しむ → 島内で昼食
  - 午後 ふれあいの湯 → 八丈植物公園 → 八丈島歴史民俗資料館 → 地元スーパーで土産購入 → 八丈島空港から出発